

に入っている。そこにいるのはガストン＝レビュ  
 ファ《星にのぼされたザイル》である。とに  
 かくしにものぐるい。片足をひきずっ  
 て歩くそんな私を釣人たちはどう  
 思っただろうか。10:30気  
 がつくと鳥川本流であ  
 る。そしてその先さ  
 らにおそろしい  
 現実が待つて  
 いた。林  
 道ま  
 で  
 2  
 時間、  
 さらに  
 車デポ地  
 までもう  
 2時間。も  
 う前に行く2  
 人の姿がうらめ  
 しかった。  
 (記。)

下降開始(6:40) — 熊滝  
 滑谷沢左俣 (10:00) — 鳥川本流(  
 (作図: 津!) 10:30) — 林道(12:30)

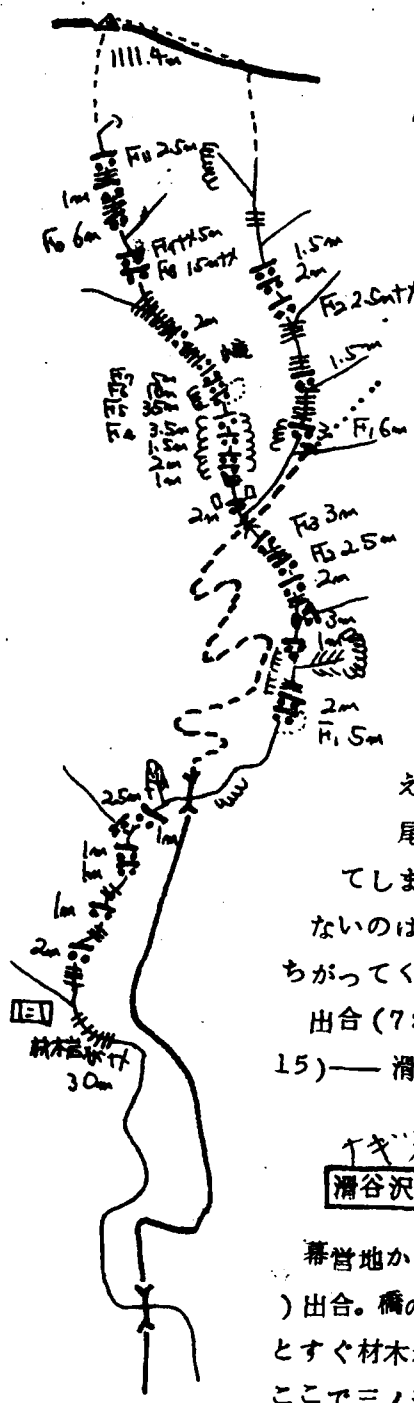
三本松沢右、中俣  
 滑谷沢左俣一ノ沢(仮称)

1981年8月30日

L

滑谷沢を下り、滝の下をくぐって支流の一ノ沢(仮称)に入る。入るとすぐナメ。吾妻の大滝沢のミニ

滑谷沢左俣一ノ沢(仮称)  
 (作図)



サイズといったところ。2つのナメを越えるとすぐ二俣。

右俣を登り、左俣を下ることにする。入ってまもなく滝が出てくる。沢幅もせまく、水量もたいしたことないので、スケールの大きいものはないが、直登できるので楽しい沢である。ナメをすぎるとF7 5mが出てくる。白糸の滝といったところで、登れないことはないが、シャワーがいやなので捲く。この上にも滝が続く。下流のそれより大きな滝である。F9, 10, 11と3段に落ちている。この沢の核心部といった所である。この上にも滝が続く。水量も少なくなるとヤブがかぶってきて、急になってくる。やがて水がかれ、なおもやぶをこぐと、栗子山頂下の広い尾根に出る。木はしげっているが、木に登ると吾妻連峰がくっきりと見える。

尾根を越し、左俣を下るが、満足な滝もなく、二俣に出てしまう。右俣に滝やナメが多いのに比べ、左俣がつまらないのはものたりなかった。尾根1本のちがいで、こんなにちがってくるとは・・・ (記)

出合(7:15)——右俣終了・尾根(9:40)——二俣(11:15)——滑谷沢出合(11:25)

ナメキノ沢  
滑谷沢左俣二ノ沢(仮称)

1981年8月30日  
L

滑谷沢二ノ沢(仮称)  
(作図: 六戸)

幕营地から45分程旧国道を歩くと入谷予定の二ノ沢(仮称)出合。橋の下流側より沢に降り身仕度する。遡行をはじめるとすぐ材木岩のような感じのナメが30m程続く。そして二俣。ここで三ノ沢(仮称)に入る浅野・山田パーティと別れる。小滝とナメが次々と現われてくる。旧国道の橋へ出る。橋の下をくぐりぬけると沢は左へ曲がってゆく。少し行くとF